

レンゲ施用水田での水稻生育・収量の特徴と地力の増加

福島県農業試験場 相馬支場
平成10～16年度農業試験場成績概要

1 部門名

水稻－水稻－施肥法、浜通り平坦、有機栽培
分類コード 01-01-13687700

2 担当者

中山秀貴・吉田直史

3 要 旨

相馬支場内レンゲ連年施用(1998年～2004年)水田圃場における調査結果から、レンゲ施用圃場における水稻生育・収量の特徴とレンゲ鋤込みによる地力増進効果について以下の知見を得た。

- (1) レンゲ施用(レンゲ播種量200～625(最頻値500)g/a、9月播種、3月下旬～4月中旬全量鋤込み)により、化学肥料施肥(窒素0.6kg/a)の2倍程度の窒素供給が行われると考えられた。
- (2) レンゲ施用圃場における水稻生育は、窒素供給過多であることが多く、その結果、倒伏増大、収量低下、品質低下となる年次が多く見られた。
- (3) 7年間のレンゲ連年施用により、施肥窒素量に換算して0.2kg/aほどの地力の増加が見られた。
- (4) レンゲ施用圃場における生産安定と高品質米生産のためには、レンゲの適期・適量鋤込みなど、窒素供給量を制御する技術が必要であると考えられた。

4 その他の資料等

なし